

CAGLIERO

カリエロ11 サレジオ会 宣教ニュース

N.144 - 2020年12月



サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信

私たちのメッセージはキリスト!

宣教顧問 アルフレド・マラヴィジャ神父 SDB

クリスマスの祝いは、私たちがキリスト教信仰の中心へと運びます。もし、キリストの誕生について全く語らないなら、それはもはやクリスマスではありません。実に、イエス・キリストなしにクリスマスはありえません!



私たちは、しばしば多くのところから、来てほしいと招かれます。貧しく見捨てられた青少年のための奉仕職、各地のセンターで行われる技術訓練、難民、疎外された若者、避難民のための社会活動が評価されているからです。これは大きな祝福です。しかし、リスクにもなりえます。私たちサレジオ会員は、教育・生活の向上や貧しく疎外された人々の発展のための事業に力を注ぐあまり、福音宣教者として影が薄くなり、ソーシャルワーカーや社会的サービスの提供者のようになってしまう危険があるのです。そうなってしまうと、善いことをしたいという望みは消えていき、福音宣教の喜びをもう感じなくなります。キリストなしに、ミッションはありえません! 実際、「もし、神の子ナザレのイエスの名と、その教え、生涯、約束、神の国とその神秘がのべ伝えられなければ、真の福音化はありえません。」(聖パウロ六世『福音宣教』22)

確かに、「キリストを信じる者はだれでも、教会のどのような機関も、すべての人にキリストを告げ知らせるというこの最高の義務を避けることはできないのです。」(『救い主の使命』3)しかし、私たちがイエスの名を口にしたりキリスト教のしるしを外に表したりすることのできない状況や社会もあります。そのような場合、イエスについて語るのには分別に欠けることとなりますが、あの内面の望み、イエスをあかしするためにすべてを行っているという内的な意向を決して失ってははいけません。私たちの生き方のあかしが、イエスについて知りたいという興味をかきたてる手段となる、そのような生き方をすること、その挑戦が投げかけられているのです。実に、「人をキリスト信者とするのは、倫理的な選択や高邁な思想ではなく、ある出来事との出会い、ある人格との出会いです。この出会いが、人生に新しい展望と決定的な方向づけを与えるからです。」(ベネディクト十六世『神は愛』1)

今日、ドン・ボスコの宣教精神を生きるということは、私自身がイエス・キリストとの出会いを毎日新たにすることです。自分を宣教するのではなく、もたらす「メッセージ」の信頼に足る運び手となるために。そのメッセージは、私たちの主イエス・キリストです!

振り返りと分かち合いのために

- イエスへの自分自身の信仰を養うよう心がけているでしょうか?
- 私のキリスト者として、あるいは奉獻生活者としての生き方のあかしは、信頼に足るものでしょうか?

会の歴史における次期第151回宣教派遣で、若者と教会の善益のために遣わされることを志願したサレジオ会員を紹介します。祈りをもって、新宣教師に同伴しましょう。

P=司祭、L=修道士、S=神学生

派遣先	氏名と現所属管区	派遣先	氏名と現所属管区
AET	S. Didier AMINI (AFC)	MEG	S. Patris CELANG (INA)
AET	S. Josip Ivan SOLDI (CRO)	MEM - MIXES	P. Ricardo Abel ESCOBAR (ARN)
AET	P. Hervé Mwenze KAPUTA (AFC)	サモア	L. Giuse Truong Ngoc LE (VIE)
ARN	S. Johannes MASUMBUKO (AFC)	サモア	S. Léon AKUMA (ACC)
ARN	S. Emmanuel Mwishia MUSA (AFC)	サモア	L. Hernán MORA BARBECHO (ECU)
CIN	S. Dieudonné MULONGOY (AFC)	スーダン委任地区	P. Jean Boutros KARAM (ICC)
CIN	L. Phero Han Quang NGUYEN (VIE)	SUO	P. Peter Ping (CIN)
COB	S. Giuse Van Tien TRAN (VIE)	PGS	P. Ferdinandus Ola AMANG (INA)
COB	S. Zacharie Aimable MVUYEKURE (AFC)	PGS	S. Joël Komian ATTISSO (AFO)
COB	S. Monsing Moses PHANGCHO (ING)	PGS	S. Mário Alberto PEDRO (ANG)
日本	S. Fidèle MANDEMBA (AFC)	POR	S. Erik Anselme MAWANGA (ACC)
日本	L. Giuse Thanh Quang NGUYEN (VIE)	POR	S. Antonio Francisco CELSO (ANG)

新たに派遣される宣教師

チェコ出身のボランティアがエクアドルのジャングルで思うこと



レナータ、エクアドルのジャングルでのあなたの仕事や計画に、コロナウィルスはどう影響していますか？

コロナウィルスのおかげで、エクアドルでの私のボランティア活動は大きく変わりました。生徒たちは家に帰り、私は学校でも寮でも若者と会えなくなりました。私がここに来た目的である最も大切なものがもう無いので、時間の無駄、ここに居続ける意味はないと思う人もいるかもしれません。でもそうではありません。コロナウィルスのために何もかも妨げられましたが、それも神の計画の中にあっただけです。神はどのように計画されたのです。この間、私はサレジオ会共同体をもっとよく知り、サレジオ会員たちとより親しくなりました。また先住民族の共同体を訪れ、そうして宣教師たちの働きを知る機会も与えられました。たくさんのお話を学びました。

今年、最もよかったことは？

今年は、私の人生のほかの年と比べ、とても特別な年でした。困難も経験しましたが、素晴らしいことのほうがはるかに多くありました。本当にたくさんの恵みを頂いたので、数え上げるのが不可能なほどです。神がいつも共にいてくださり、何をしても神の近しさと現存を感じることができました。多くの素晴らしい人たちと出会い、その人たちは今、私の心に、私の祈りの中にいます。またさまざまな価値についてたくさん学びました。国際ボランティアの経験は忘れがたいものになりました。この経験ができたこと、そしてすべてのうちに共にいてくださったことを、神に深く感謝しています。

サレジオ会員についてはどのような体験でしたか？ サレジオ会員に言いたいことは？

私はアマゾン熱帯雨林の中にあるサレジオ会共同体で生活しました。とても良い共同体でした。自分が受け入れられ、共同体の一員だと感じました；このことは、あらゆるサレジオ会の修道院でとても大事なことだと思います。ワサクエンツァの愛する私の家族の皆さん、何もかも本当にありがとうございました！ 皆さんといてとても居心地よく、一緒に生活できた時をすべて感謝しています。私を受け入れてくださり、近く共にいてくださり、ありがとう！皆さんのことをいつまでも心にとどめ忘れません！

レナータ・シュミトウヴァ

24歳、チェコ共和国、ブルノ出身。
サレジオ・ボランティアSADBA協会の
研修を受け、エクアドルのワサクエンツァに
1年間派遣。



アッティリオ・ジョルダーニ (1913 - 1972)、サレジアニ・ココペラトリー会員、ブラジルの宣教師。アッティリオはキリスト者として、人生のさまざまな季節を経験した：ファシズムの時代は、オラトリオのうちに、カトリック・アクションのうちに自由を求めた；戦中、戦後の時代、政治や政党が敵対と対立の空気の中にあっただけ、アッティリオは善意の十字軍を生み出した；抗議運動の時代、年配者が失望のうちに土地を棄て、若い人々が取って代わる中、アッティリオは、息子たちが家族に紹介したオペレーション・マトグロソを支持した。アッティリオはこのすべてを婚約者で後に妻となったノエミと共有した。ノエミは、アッティリオの大きな熱意によって、自身にとっても生涯にわたるものとなった取り組みに引き込まれた：「愛するノア、ただ親切な人になるためだけでなく、この世にいながらこの世のものでない者として生きるために、流れに抗って進むために良い者となるよう、主が私たちを助けてくださいますように。」

サレジオの宣教の聖性のあかし

サレジオ会列聖申請人 ピエールイジ・カメローニ神父

サレジオ会員とサレジオ家族の
すべてのメンバーの聖性のために



サレジオ会の宣教の意向

私たち一人ひとりが、神のみ言葉と祈りの生活に養われ、
イエス・キリストとの親しい絆を成長させますように。

聖ヨハネ・ボスコの使徒職の実り豊かさの秘訣は、その内面の霊的深さでした。サレジオ家族のすべての使徒が自らの内面生活を培いますように、祈りましょう。

